

互いに認め合い支え合う「学級・授業」の創造  
— 体育科教育での『言語力向上』を中心に —

教育実践研究科 教職実践専攻 教職実践基礎領域  
西崎 里織

## I はじめに

### 1 今求められている生徒の学力・人間性

#### — 「生きる力」を育むために —

中央教育審議会は平成20年1月に出された答申<sup>注1)</sup>の中で、「生きる力」を「変化が激しく、新しい道の課題に試行錯誤しながらも対応することが求められる複雑で難しい時代を担う子どもたちにとって、将来の職業や生活を見通して、社会において自立的に生きるために必要とされる力」としている。

知識基盤社会の到来やグローバル化の進展等急速に社会が変化中、次代を担う子どもたちには、幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて判断することや、他者と切磋琢磨し、異なる文化や歴史に立脚する人々との共存を図ること等、変化に対応する能力や資質が一層求められている(〃・…等は西崎による、以下同じ)。このような状況において、「生きる力」を育むことがますます重要になってくると言える。

また、近年の国内外の学力調査の結果等から、我が国の子どもたちには思考力・判断力・表現力等に課題がみられることもわかっている。

### 2 「思考力・判断力・表現力」を育む教育

#### — 学習指導要領の改訂等から —

教育基本法や学校教育法の改正等を踏まえ、「生きる力」を育むという学習指導要領の理念を実現するため、その具体的な手立てを確立する観点から学習指導要領が改訂<sup>注2)</sup>された。

- |                           |
|---------------------------|
| ① 改正教育基本法等を踏まえた学習指導要領改訂   |
| ② 「生きる力」という理念の共有          |
| ③ 基礎的・基本的な知識・技能の習得        |
| ④ 思考力・判断力・表現力等の育成         |
| ⑤ 確かな学力を確立するために必要な授業時数の確保 |
| ⑥ 学習意欲の向上や学習習慣の確立         |
| ⑦ 豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実  |

思考力・判断力・表現力等を育むために、観察・実験、レポートの作成、論述等知識・技能の活用を図る学習活動を発達の段階に応じて充実させるとともに、これらの学習活動の基盤となる言語に関する能力の育成のために、小学校低・中学年の国語科において音読・暗唱、漢字の読み書き等基本的な力を定着させた上で、各教科等において、記録、要約、説明、論述といった学習活動に取り組む必要があると指摘した。

### 3 実習校の実態から

#### — 小一中のよさを活かす —

私が実習をさせていただいている愛知県豊橋市立吉田方中学校は、小一中(一つの小学校児童がそのまま一つの中学校に進学する)という実情から、地域の

絆が強く、生徒は孤立することなく元気に明るく学校生活を送っている。その反面、生徒の人間関係が固定化されているという現状もあると伺った。

私が参観させていただいたある授業において、話し合い活動が行われた。その際、積極的な生徒と消極的な生徒の意見の出し方に差を感じた。話し合う際にはすべての生徒が公平な立場で意見を出せることが望ましいと考えられる。自分一人で行き詰まるのではなく、何事も仲間と支え合って生きていけるようになってほしいという願いを込めて、このテーマを決めた。

本報告書では、専門教科である体育科での授業実践(実習II)を中心に述べさせていただくこととする。

## II 体育科に求められること

### 1 学習指導要領改訂より — 生涯を通じて学ぶ —

今回の学習指導要領改訂により、体育の改善の基本方針<sup>注2)</sup>が以下のように示された。

「体を動かすことが、身体能力を身に付けるとともに、情緒面や知的な発達を促し、集団的活動や身体表現などを通じてコミュニケーション能力を育成することや、筋道を立てて練習や作戦を考え、改善の方法などを互いに話し合う活動等を通じて論理的思考力をはぐくむことにも資することを踏まえ、それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて、基礎的な身体能力や知識を身に付け、生涯にわたって運動に親しむことができるように、発達の段階のまとまりを考慮し、指導内容を整理し体系化を図る。」

基本的な技能を習得することは前提だが、競技者を育てるような技術の向上に特化した授業ではなく、体育の中でも他者とのかわわりを大切にしたり論理的に考えたりする授業を展開していくことが重要となった。

### 2 体系的な指導を目指して

体育においては、小学校から高等学校までの12年間を一貫して生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎づくりを目指している。“心と体を一体としてとらえ”という心身一元論の立場を取っていることを意識して授業を展開していく必要がある<sup>注3)</sup>。

12年間を4(小学校1年生～4年生)→4(小学校5年生～中学校2年生)→4(中学校3年生～高校3年生)に分け、これらを「各種の運動の基礎を培う時期」→「多くの領域の学習を経験する時期」→「卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続することができるようにする時期」とし、指導内容の体系化と明確化が図られている。これをもとに、発達段階に応じた系統的な授業が必要になっている。

### 3 体育科でも「言語活動の充実」を

生徒一人ひとりが所属意識を得られる学級経営  
— 体育祭に向けた活動と実践を中心に —

1 テーマ設定の背景と実践計画

学習指導要領<sup>注6)</sup>に「学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。」と明記されている。

学校という集団活動の場では、個性を尊重して得意分野を引き出していくことはもちろん大切だが、すべての活動に対して互いに協力して物事に取り組んでいくことが重要である。また、学級はすべての生徒の居場所となることが必要であり、本来そうでなければならぬ。学級が立ち上がってすぐの5月にある学校行事(体育祭)に向けて、準備・練習・本番等の中で全員が活躍できるような場を作り個も学級も成長できるよう実践を進めた。

2 実践内容

(1) 道徳・学活の授業

体育祭前に道徳の授業を2回、体育祭後に学活の授業を1回実践した。

また、学級通信の中に授業で学んだことや学級の仲間の記述等を載せ、授業の翌日に発行した。学級の仲間の考えを知り、自分とは違った考えを認めたり自分の考えを再度見つめ直したりできるよう、できる限り多様な記述を載せるよう心がけた。

①道徳「私たちの体育祭 HOWマッチ？」

目的・目標:体育祭で自分は何に最も価値を置くのか、学級のみんなはどのような価値を持っているのかを知り、よりよい学級を作っていけるようにする。

一人100万円(50万・30万・15万・5万)を持ち、練習・努力・応援・団結・勝利・友情・思い出・楽しさの8つの中で自分は何に価値を置くのか、またその理由を考えた。その後4人グループになり、再度話し合って発表した。すべての生徒が意見を出せるような環境を作るために少人数グループ(4人)とした。

②学級通信

 私たちの体育祭 HOWマッチ？

2年生になって2回目の道徳のテーマは、みんなにとっての体育祭の「価値観」でした。長縄跳びの記録が伸び悩んでいる中、『体育祭に向けたみんなの価値観を知り、意見を言い合うことによってよりよい学級を作っていってほしい』という気持ちを込めて、この題材を選びました。私にとって初めての道徳授業であり、校長先生をはじめ多くの先生方が見に来てくださったことによりすごく緊張しましたが、みんなの授業に真面目に取り組む姿勢に本当に助けられました。ありがとうございました！！

【授業の感想より】  
・体育祭だけでなく大きな行事では、自分の意見だけでなく他の意見も受け入れて**最高のものにしたい**と思いました。  
・今日この授業をやってみてみんなの体育祭に対する気持ちがわかったような気がする。このことをふまえて**絶対に体育祭優勝したい**と思った。そして2組の団結を**もっと盛上げていきたい**。  
・自分の意見が相手の意見によって違う見方を興つけ出すことができたため、**最高の強み点でも相手の意見も尊重すること**で新たな方法にたどり着くと思った。  
・ほとんどの班に「団結」が入っていた。みんなが同じことを考えているとわかったら、明日の練習は**今までよりずっといっぱい頑張ると思っています**。みんながよい思い出になれるようがんばりたいです。

代表して、クラスの仲間4人の感想を載せました。みんなそれぞれがとてもよいことを書いてくれました。しかしが舞会で校長先生が言われたように、「団結」「練習」「努力」の向こう側に「勝利」があるということを感じていた人も多く思います。体育祭までの7日間、みんなのがんばりに期待しています！！一緒にがんばろう！！(西岡聖樹)

中央教育審議会は平成20年1月に出された答申<sup>注1)</sup>の中で、言語は知的活動(論理や思考)の基盤であるとともに、コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもあり、豊かな心を育む上でも言語に関する能力を高めていくことが重要であるとしている。このような観点から、新しい学習指導要領においては言語に関する能力の育成を重視し、各教科等において言語活動を充実することとしている。

教科では、基礎的・基本的な知識・技能を習得しつつ、観察・実験をし、その結果をもとにレポートを作成する、文章や資料を読んだ上で、知識や経験に照らして自分の考えをまとめて論述するといったそれぞれの教科の知識・技能を活用する学習活動を行うことが求められている。

文部科学省が提示している事例集<sup>注4)</sup>には、球技の授業で作戦を考え改善の方法などを互いに話し合う活動が載っている。これは筋道を立てて考えることができるため、論理的思考力を育むための一つの手段だと言える。今回は個々に目標を立てたこともあり、それぞれの目標に対して筋道を立てて論理的な思考を深めるためには、レポート記述が有効であると考えた。

4 指導と評価の一体化

学習評価は一般に「関心・意欲・態度」「思考・判断」「運動の技能」「知識・理解」の4観点に照らして行われる<sup>注5)</sup>。目標や内容にもとづいた指導によって学習した子どもたちがどのような成果を得ることができたのかを把握するために行われる。

しかし現実には、「技能」のみに焦点を当てその結果を評価する向きがある。すなわち、スキルテストで“できる・できない”と二項対立的に評価され、それが通知表などの評定に直結していることが少なくない。つまり、運動が得意な生徒はよい成績がつき、運動が苦手な生徒は悪い成績がつくということである。

平成14年に「指導要録」が改訂され、従来の「相対評価」に換えて「目標に準拠した評価(絶対評価)」が提案された。学習指導要領に示す基礎的・基本的な内容の確実な習得を図るため、学習指導要領に示す目標に照らして子どもたちの実現状況を適切に評価する方法としての意義が認められつつある。

評価は「運動の技能」の習得・活用のみではなく、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「知識・理解」を総合的にとらえる必要がある。今回の実践で重視した、体育科を通して認め合い支え合うことや自分の生き方に活かす等の視点から、体育の授業をとらえ直す必要がある。すなわち単に成績の良し悪しを判断するだけでなく、教師の子どもに対する指導の的確さを測り、それを自らの指導の改善に役立てるところにある。的確な評価をすることによって、教師の指導の改善と学習者の次の学習活動への意欲を生み出す、真の「指導と評価の一体化」を目指していかなければならない。

③研究授業 道徳「学級新聞作り」(明るい人生より)  
目的・目標：2日後にせまった体育祭に向けて、学級全体で気持ちを高める。

メインの活動の「登場人物の3人の誰に共感するか?」という価値の類型化の場面では、全員が黒板に名前磁石を貼り、その理由について意見を出し合った。

#### ④学級通信

### ついに明日は体育祭!!



昨日は2年生になって3回目の道徳の授業でした。『目前にせまった体育祭に向けて気持ちを高めてほしい』という願いを込めて明るい人生の「学級新聞作り」を選びました。みんなは何を感じ、何を学びましたか?

【「これからみんなのためにがんばりたいこと」より】

- ・体育祭の時に、学級のみんを全力で応援してあげたいと思います。
- ・自分の個性を出して盛り上げたい。
- ・クラスのみんまで盛り上げないといけない行事がこれからもたくさんあるから、しっかりと積極的に練習をがんばりたい。
- ・自分のやる事が終わっても、他のみんなのために準備をしたらいいのをおぼえ、実行したい。
- ・体育祭で声を出したり、応援合戦のパフォーマンスを練習がしげうにやりたい。
- ・長縄でびっくりからなりたい。
- ・体育祭で、すべての種目全力で取り組むたい!!

代表して、学級の仲間7人の感想を載せましたが、みんなそれぞれよいことを書いてくれました。『全力』『協力』『応援』と言うキーワードがすごく目立っていました。さらには「自分の行動によって周りの人をよくしていきたい」というすばらしいことを書いた仲間もいました。2年2組はすばらしい『集団』になれるはず。明日の体育祭、みんなの活躍を期待しています!! (西崎聖織)

#### ⑤学活「君はどこかでヒーロー」

##### ～体育祭の振り返り～

目的・目標：体育祭の振り返りの中で「自分」「友達」「学級」と向き合い、体育祭で学んだことを日常の生活や次の行事等に活かすことができるようにする。

振り返りシートを中心に意見を出し合い、体育祭の振り返りを行った。最後に一言カード(みんなに一言!)を書いて学級の掲示物とした。

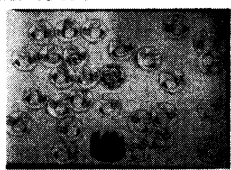
#### ⑥学級通信

### 「君はどこかでヒーロー」～体育祭の振り返り～

昨日の5時間目に、体育祭の振り返りをしました。みんななかなか上手なためらっていませんでした。すばらしいことを書いていたので紹介します。

【体育祭で学んだことを、今後生活の中でどのように活かしていきたいですか。】

- ・体育祭でクラスが団結する大切さがあったので、文化祭や合唱コンクールでもみんなで団結していきたい。
- ・実行委員で責任に任されるのいいと思ったのでもっと積極的にやってみよう。
- ・しっかりとすることはしっかりとメリハリを学んだので、これからは勉強と放課のメリハリをつけたい。
- ・だれかが失敗しても、勇気を出してアドバイスをしたこと、いつも最後までがんばること。
- ・応援のことや声かけの選手のことばかりではなくて、他の行事にも声かけたい。
- ・準備がしてあるから行事ができる＝準備が大事、準備ができていない人だと準備を自分でやることをやる。
- ・自分の仕事はきちんとやって、困っている人を手伝ったりしたい。
- ・同じクラスの仲間として、何事も助け合って進んでいくことを学んだので、それを忘れず活かしていきたい。
- ・応援の大切さを学んだので、これからもがんばっている人がいたら応援したり手伝ったりしていきたい。
- ・自分の選手のこと、一人ではできないことも、応援がいればできる!!



みんなに一言カード

体育祭で学んだことを、日常生活に活かして書いてくれました。みんなのとてもよい「人柄」が伝わってきます。3年生が本格的に受験モードに入ったら、2年生が学校を引っ張っていかねばなりません。一人ひとりがどこかで「ヒーロー」になれば、間違いなく最高の吉田中学校になるはず。2組のみんなの活躍を期待していますよ!!

#### (2)長縄グラフ(詳細は略)

学級の団結のため、長縄で跳べた回数の成長グラフを作った。全員が共通の目標をもって取り組めるよう、視覚的にわかるようにした。

### 3 実践の成果・考察・課題

#### (1)実践の成果

以下の2つの質問について、10段階評価(10が「とても思う」)で継続的にアンケート調査をした。

①2年2組は楽しいですか。

実践前 4月27日(金)	実践後 5月17日(木)
7.7	8.6

②2年2組の中に、自分の居場所がありますか。

実践前 4月27日(金)	実践後 5月17日(木)
7.8	8.5

体育祭明けのアンケート調査では13人の生徒が最高評価である10を付けた。ここから3分の1以上の生徒が2年2組の現状にとっても満足していることがわかる。全体的な数値は上がったが、その反面で5や6のようにどちらでもないような評価をしている生徒もいた。

#### (2)実践の考察

道徳「私たちの体育祭 HOWマッチ?」の実践後、以下のような意見が出た。

- ・自分の班の意見を見て完璧だと思ったけど、他の班の意見を聞いて、そういう考えがあったのかとか、なるほどと思いました。
- ・ほとんどの班に“団結”というものが入っていて、みんなが自分と同じ考えをもっていることがうれしかった。
- ・今日の授業でたくさん意見を出し合えて、みんなが同じ方向を見れた。明日の朝練はきっとたくさん跳べる(長縄)と思います。

大半の生徒が、友達のことを思いやり、共に体育祭を成功させようとする等の考えをもつことができた。友達の考えを認め、学校行事を通してよりよい学級を作っていくために有効な活動であったと考えられる。

道徳「学級新聞作り」の実践後、これからみんなのためにがんばりたいことを問うと、以下のような意見が出た。

- ・体育祭では全力で応援する
- ・率先して学級を盛り上げる
- ・学級が団結できるようなアイデアを出す
- ・たくさんの意見を出す

自分のためにはもちろんであるが、学級のため、友達のためにがんばりたいという意見が多くみられた。友達と支え合い、共に成長し合うために、有効な活動であったと考えられる。

学活「君はどこかでヒーロー～体育祭の振り返り～」の実践後、以下のような意見が出た。

- ・優勝はできなかったけど、学級が団結できたので悔いはない。これからの他の行事でも日常生活でも、みんなで協力してがんばりたい。
- ・誰かが失敗しても、責めたりせずにアドバイスをしたい。
- ・同じクラスの仲間として、何事も助け合って支え合って物事をやり通すことを学んだので、それを忘れずに今後に生かしていきたい。

・自分の役割を果たすことの大切さに気付くことができた。

体育祭の準備や練習、当日を振り返る中で、学級が団結することのすばらしさや友達を思いやる気持ちに気付くことができた。これは、友達を認め、共に支え合うという経験ができたという結果であると考えられる。また今回学んだことを日常生活の中で実行している。今後の学級づくりのために、有効な活動だったと考えられる。

### (3) 今後の課題

体育祭に向けての練習・準備段階で「団結」「協力」「応援」等の言葉が生徒の口から出てきたが、体育祭が終わって少し経つと、学級の中はあまり変わっていないという意見もあった。一つ目の実践(道徳「私たちの体育祭HOWマッチ?」)のように、授業の中で意見を出し合い話し合うような活動を取り入れることが、本学級ではもっと必要だっただろうと感じている。

学校行事によってすべての生徒が自分や学級の成長を感じる中で継続してよい方向に持っていくことが重要だと学ぶと同時に、今後の課題である。

## IV 体育科での授業実践 —教師力向上実習II—

### 体育科教育における“言語活動の充実”とは —マット運動(中学校)の実践で達成感を—

#### 1 テーマ設定の背景

変化が激しい現代に生きる子どもたちは、自分で考え判断し、正しく相手に伝えることが求められる。前述したように、どの教科においても言語活動を充実することが求められている。そこで技能教科である体育でも、正しく相手に伝えたり、自分の行動や考えを文章で表現したりする活動を積極的に取り入れたいと考えた。

また、体育は得意不得意がはっきり分かれる教科でもある。すべての生徒が自分の目標に向けて取り組む

ことができるような授業を作りたいと考えた。

#### 2 生徒の実態 一意欲・向上心を活かす

本実践では、中学校2年生女子26名(1組12名、2組14名)を対象とした。

9月に行われた陸上競技の授業の中で、ハードル走ではよりタイムを縮めようとし、走り高跳びではより高い記録ができるように個々が自分の課題と向き合い、積極的に練習を行っている姿がみられた。

マット運動に関する事前アンケートを行ったところ、「マット運動が好きですか」という問いに対し、10段階で1組は平均5.0、2組は平均5.7という結果だった。1組は全体的に普通と答えた生徒が多く、2組は好き嫌いにはばらつきがあった。また、苦手意識のある生徒でも「できる技を増やしたい」「もっと上手にできるようになりたい」という願いをもっていることがわかった。

#### 3 器械運動・マット運動の特性と実践計画

器械運動は「できる」「できない」がはっきりしているため、苦手意識を持ちやすい単元である。しかし、各自の課題設定の段階で、自己の能力を適切に判断した技の選択をすることができれば、より多くの生徒に「できた」という満足感を味わわせることができると考えられる。

マット運動の授業の中で生徒が楽しさや達成感を感じるのは、「挑戦した技ができるようになった」「できる技が増えた」「仲間と助け合って技ができるようになった」等の時である。個人で技術を高めていくことだけにとらわれず、補助し合ったり仲間と共に練習したりする中で「なぜうまくいかないのか」「どこを修正したらよいか」を客観的に見て判断する力を養うことができる。また、互いに認め合い支え合う活動を通して、仲間と共に学ぶ楽しさを理解し、心身共に成長することが期待できる。ペアでの活動を単元を中心に取り入れたいと考えた。

#### 4 実践の内容 ※重視した活動を口で囲んだ(詳しくは以下記述する)

時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
内容	集合・あいさつ・本時の目標・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">個人の目標設定</span> ※学習カードに記入										
	準備運動・ストレッチ										
	オリエンテーション	基本技の確認	基本技の確認	倒立前転の練習	倒立前転の確認	倒立前転の練習		リハーサル	発表会	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">レポート</span>	※教室
	完成技の確認	ペア学習について	基本技の練習	個人の課題練習		技の判定	つなぎの練習				
			個人の課題練習	個人の課題練習			個人の課題練習	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">レポート</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">構成</span>			
<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">授業の振り返り</span> ※学習カードに記入											
あいさつ・解散											

## 5 具体的な手立て

—すべての生徒が参加できるように—

本実践では、一人で取り組むのではなく友達と支え合う中で学習カードを効果的に活用しながら、技を達成していく喜びを味わうことができるような授業を目指した。体系的な指導が求められる今だからこそ、豊かなスポーツライフの基盤となるように、基礎的な技能の習得を含め、共に高め合うという経験をさせたいと考えた。

単に「すごい!」「よかった!」と伝えるだけではなく、「何が」「どのように」「どう」なのかについて相互に伝え合うことにより、より細やかな感性・情緒を実感できるようになる。これらが日常生活の中で良好な人間関係を築くことにもつながると考えた。

また、毎授業の終わりに振り返りとして“書く”活動を取り入れた。自分の考えや思い、感情等を書いてまとめ、伝える技術の習得過程で思考力・判断力が深まると考えた。そして単元の最後には論理的な「表現力」の基礎になるレポートを書くことで論理的記述力を養うことができると考え、実践を進めた。

### (1) 毎時間の学習カード記入と振り返り

—自分の成長を文章で表す—

①	月 日 ( )	曜日	ヘア :
本時の目標			
個人の目標			
自己評価 (A・B・C)		挑戦した技	
授業の準備・片付けがスムーズできた。 マット運動の楽しさを味わうことができた。 目標をもって意欲的に取り組むことができた。 個人の目標を達成することができた。 仲間と支え合い、アドバイスをすることができた。		【新たに気付いたこと】※どの技で、どのようなことに気付いたか。見つけたか。	
【仲間にアドバイスしたこと】※どの技の練習をしていたとき、誰に、どのようなアドバイスをしたか。		【仲間にアドバイスされたこと】※どの技の練習をしていたとき、誰に、どのようなアドバイスをもらったか。	
【次回へ向けた課題】※どの技で、どのようなことに気をつけてやりたいか。			

学習・引用・要約…を具体的にナンバリングして書く。

毎時間の授業の最初に、本時の目標として教師が全体に対して共通目標を定め、その時間に学習する内容をホワイトボードに示し、説明をした。それを基に生徒は個人の目標を立て、学習カードに記入した。自分の技能のレベルに合った目標を立てることで達成する喜びを味わわせたいと考えた。

新たに気付いたこと、仲間にアドバイスしたこと、仲間にアドバイスされたこと、次回に向けた課題、の4項目を毎授業の終わりに記入した。自分の考えや思い、感情等を書いてまとめることで、思考力を養うことができると考えた。

また、自己評価をして自分の責任を果たせるようにすること、技の名前を書き正しい知識を習得すること、の2点も同時にできるよう作成した。

## (2) ペア学習でのポイントチェックシートの活用

—友達と支え合い技能の向上を目指す—

### ポイントチェックシート

友達にOKと言われたら、先生にOKと言われたら、を○で○

種別	技	Lv	評価ポイント	2	3	4	5	6	7
A	前転	1	両手で体を支えられるが、まっすぐ回ることができない。						
		2	後脚部から背中、腰にかけて順番にマットについている。						
		3	ひざがくっついて足先が伸び、手を動かさずに立てる。						
B	開脚前転	1	足を開くことはできるが立ちあがることができない。						
		2	お尻をしっかりと上げて回ることができる。						
		3	ひざを伸ばして起き上がることができる。						
★	側立前転	1	前転に入る際、背中から落ちしてしまう。						
		2	腰やひざを伸ばしているが、静止することができない。						
		3	側立が3秒以上静止し、なめらかに回ることができる。						
B	跳び前転	1	両足で踏み切れるが、近いところに手をついてしまう。						
		2	体を空中に浮かせ、速くに手をついて前転ができる。						
		3	空中で全身を伸ばし、高く大きく跳ぶことができる。						
D	仰転前転	1	立てないが、前足で両手でマットを押すことができる。						
		2	腰を曲げて勢いをつけ、足は曲がるが立つことができる。						
		3	ひざを伸ばしたまま立つことができる。						
A	後転	1	両手で体を支えられるが、まっすぐ回ることができない。						
		2	両手を耳の後ろにつき、まっすぐ回ることができる。						
		3	ひざが開いて足先が伸び、なめらかに回ることができる。						
A	開脚後転	1	足を開くことはできるが、お尻から落ちしてしまう。						
		2	足を開くときにひざが曲がってしまう。						
		3	ひざを伸ばして起き上がり、立つことができる。						
B	仰転後転	1	立ちあがる際にひざが曲がってしまう。						
		2	足がついたら、両手で素早くマットを押すことができる。						
		3	はじめから終わるまで常にひざを伸ばしたまま演技ができる。						
D	後転側立	1	勢いをつけて足を上にあげ、少しでも体を浮かせることができる。						
		2	静止はできないが、一歩側立の姿勢を作ることができる。						
		3	ひざ・腰・ひざが伸びて側立し、3秒以上静止できる。						
C	側方側立回転 (側転)	1	手一手一定の距離を保つことができる。						
		2	足が曲がっているが、しゃがまずに立つことができる。						
		3	手足が伸び、大きな演技を一連線にできる。						
D	側方側立回転跳び 1.4ひねり (ロングダート)	1	体をひねり、後ろ向きで両脚着地ができる。						
		2	ホップして腰を伸ばして回転することができる。						
		3	手を離したあと空中に浮かせ、体を伸ばして着地ができる。						
D	前方側立回転	1	側立からブリッジができる。						
		2	補助ありで、ブリッジから起き上がることができる。						
		3	全身を伸ばし、自分で起き上がることができる。						
E	前方側立回転跳び ハンドスプリング	1	助走から勢よく両手を高くすることができる。						
		2	側立姿勢を経て、着地の瞬間しゃがみ立ちができる。						
		3	常にあごをあげ、膝を伸ばして着地をすることができる。						

種別	技	Lv	評価ポイント	2	3	4	5	6	7
C	側立	1	両手とおどりが三角形になっている。						
		2	形はできているが、静止することができない。						
		3	ひざ・背中・腰を伸ばし、3秒以上完全に静止できる。						
D	側立	1	補助側立ができる。						
		2	側立で、10秒以上静止できる。						
		3	ひざ・背中・腰を伸ばし、3秒以上完全に静止できる。						
A	片足平均立ち	1	ひざなどが曲がっている。						
		2	形はできているが、静止することができない。						
		3	手・腰・背中などが伸び、3秒以上完全に静止できる。						
B	V字バランス	1	ひざが曲がったり、背中が丸まったりしてしまう。						
		2	V字型は作れるが、静止することができない。						
		3	ひざや背中などが伸び、3秒以上完全に静止できる。						
B	片足正面平均立ち	1	頭を起こして正面を向くことができる。						
		2	あがっている足と体が一直線になる。						
		3	ひざ・背中などが伸び、3秒以上完全に静止できる。						
C	Y字バランス	1	ひざや腰が曲がったり、背中が丸まったりしてしまう。						
		2	Y字型は作れるが、静止することができない。						
		3	ひざなどが伸び、3秒以上完全に静止できる。						

授業の大半の活動を、ペア学習で展開していった。互いにアドバイスをし合い交流をする中で「支え合い」が生まれるよう意識して活動を行った。基本的には大先頭横2列でペアを組み、毎回ペアを変えることはしなかった。その理由としては、体格差を考慮したこと、常に同じようなペアで取り組むことで相手の特徴や成長をとともに見ることができるからである。

教師がポイントチェックシートを作成し、教師が選んだ19の技すべてを3段階のレベルに分けた。スモールステップで一つ一つ確実に技を習得すると共に、人に魅せるというマット運動の特徴を生かし、どの技でも高い完成度を目指せるようにした。また、互いにアドバイスする際に技能の違う生徒同士でもポイントを的確に伝えることができるよう考えた。

### (3) レポート記述と運動能力・技能の明確化 — 論理的思考力を高める —

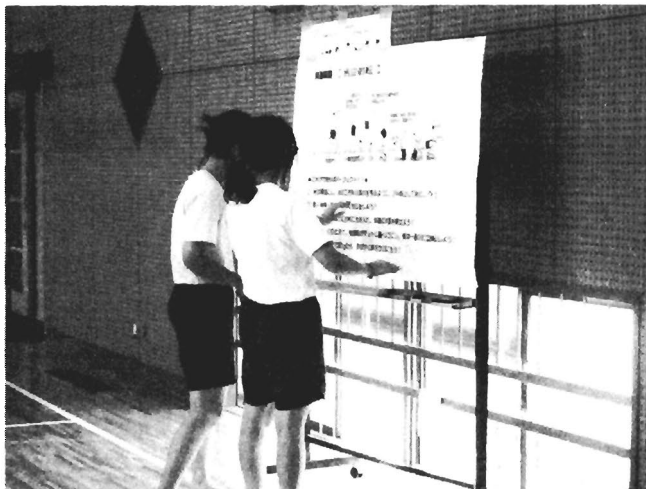
マット運動のレポート **【構成シート①】**

構成	内容	書き方のポイント(例)	説明
はじめ	技の選択理由	①授業の中で力を入れて取り組んだ技(いくつでも可) ②その技を選んだ理由	私が特に力を入れて取り組んだ技は、 その理由は、
なか1	技の特徴とポイント	①選んだ技の特徴(動きの特徴など) ②選んだ技のポイント	その技の特徴は、 また、ポイントは
なか2	学習	①技を完成させるために苦学したこと	技を完成させるために苦学したことは( )つあります。一つ目は、
	グループ・ペア学習を通して	①誰に、どのようなアドバイスをもらったのか ②その中で有効だったこと	( )さんにアドバイスしてもらったことは、 その中で一番有効だったのは、
まとめ	自分なりの工夫と考え	①その技を達成するために工夫したことや考え ②自分で気付いたポイント ③授業を通して学んだこと	技を達成するために工夫したことは、 自分で気付いたポイントは、 授業を通して、
おわり	今後に向けて	①これからの課題 ②今後の生活の中で活かしたいこと	授業を通して自分なりに見つけた課題は、 私は今後、生活の中で

とする意志をもち、これらが社会生活における望ましい態度や行動にもつながっていくだろうと考える。よりよい人間関係を築く手助けを体育の学びの過程で行うことができると共に、豊かなスポーツライフの基礎となることを感じた。



【写真】ペアの友達にアドバイスをしている姿



【写真】技のポイントを確認し合う姿

論理的な「表現力」の基礎になるレポートを書くことで、論理的思考力を養うことを目的として行った。「はじめ・なか1・なか2・まとめ・おわり」に分け、書き方のポイントを書き出しが書いてある構成シート(思考の型)を使った。レポートを書くという経験がなかったため、より論理的な文章を書くことができるように工夫をした。技を複数選ぶ等の生徒には、教師が構成シートの型を作り直した。

構成シート①を書いた後に一度回収し教師が直し、その後説明の部分が自由に書けるようになっている構成シート②に、そこからさらにレポートとしてつながりのある文章にすることで、書くことに対してモチベーションを下げることなく書くことができると考えた。

## V 実践の成果・考察

### 1 実践の成果 — 運動の大切さ・達成感・協力の重要性を目に見えるように言語化(認識化)させる —

#### (1) 友達と支え合うことで喜びを分かち合う

ポイントチェックシートを使うよう毎授業で促していった。初めは自分の練習を優先する生徒が多かったが、実際に教師がさまざまなレベルの技を行い、アドバイスの仕方や補助の仕方を学んだり、意図的にレベルの判定をする時間を取ったりしていくうちに、自然とチェックシートをじっくり見ながらアドバイスしている姿がみられるようになった。また、ペアを根気強く補助している姿や友達に補助を頼む姿、できたときにハイタッチして喜びを分かち合う姿が多く見られた。

体育の授業が技能の習得のみにとどまらず、友達の学習を積極的に支援する等、相手と積極的に関わろう

(2) 「自分の考え」や「事実」を言語化し表現力へ  
毎授業の終わりに、学習カードを書く活動を行った。1時間の授業の中での気づき、共に学び合った事実(会話)、次回への課題を書いてまとめることで、頭の中を整理して次回へとつなげられるようにした。はじめは慣れずになかなか書くことができなかった生徒が多かったが、毎回朱書きを入れたり、授業の中でよく書けているものをいくつか紹介したりしていくことで“書く”ことに関心をもち、より具体的に書くことができる生徒が増えていくことを実感した。授業が進むにつれて下記のように事実を正確に書くことができる生徒が増えていった。

- さんは開脚前転で足を開くタイミングがはやくて崩れていたので、「もう少し遅く開くといいよ」と言ったらきれいにまわることができていた。
- さんは倒立前転のとき倒立でとまることができなかったので、「マットを見るといいよ」と言ったら



静止することができていた。

- ・〇さんに、伸膝後転の練習のとき「足をつく場所をもう少し遠くしてみたら」と言われたので意識したら、膝を伸ばして回れるようになった。
- ・片足正面平均立ちで「頭を上げて正面を見るといいよ」と言われて直したら、背中や膝がのびてきれいにバランスが取れるようになった。

### (3) アンケートより ー達成感を味わうためにー

「あなたはマット運動が好きですか？」というアンケートを実践前と実践後の2回、10段階評価(10がとも思う)で行った。授業を通してマット運動を“好き”だと感じた生徒が増え、生涯にわたって運動に親しむことにつながっていくのではないかと考えられる。

	実践前 9月27日	実践後 10月26日
1組	5.0	7.0
2組	5.7	7.2

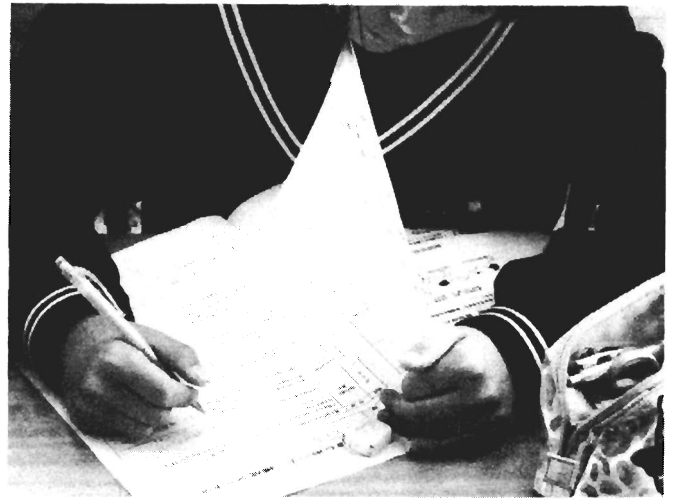
また「達成感を感じた場面はどこですか？」という質問に対して、「できなかったことができるようになったとき」という意見をほとんどの生徒が書いており、「発表会で5つの技をやり遂げたとき」という意見も何人かから挙がった。個々の目標を立ててスモールステップで学習をしていくこと、自己の能力を適切に判断して技を決めて取り組むことでより達成感を味わうことができると考えられる。

## 2 構成シートを使って論理的思考力を育てる

### ーレポート記述と評価ー

最後の授業では、生徒全員がマット運動での活動をレポートとして書き、提出した。毎授業で書いてきた学習カードを参考にし、構成シートを使うことでより論理的に書ける生徒が多くみられた。レポートに書く前に教師が個々に合った朱書きをし、もう一度練り直して文章にすることで、より内容の濃いレポートが書けたように感じた。

高校生や大学生、社会人になるにつれて文章化すること求められてくる中で、中学校の段階で自分の考えを論理的に記述できるような技術を身に付けることはとても有効であり重要だということを改めて感じた。



【写真】教室でレポートを書く姿

以下、生徒のレポートを①～⑥の観点でとらえ、運動の大切さや技術等についての学習評価を分析して示すことにした。なお、6つの観点の意図については以下の各項目の補足説明をご覧ください。

#### ①タイトルの付け方

授業の中での自分の活動や自分の書いた文章を論理的にとらえ、最も伝えたいことをキーワードとして取り上げるという視点である。

#### ②技能ポイントの習得と定着化

特徴やポイントを的確にとらえ、技能の基礎・基本を習得するという視点である。

#### ③課題の自覚と活用

技のポイント等の知識を習得し現状と比較することで自らの課題に気付き、目標に向けて次の活動へとつなげていく視点である。

#### ④互いに認め、支え合う重要性の自覚

コミュニケーション能力の育成を目指すと同時に、今回の実践の大きなねらいである、友達と活動を進める中で互いに認め支え合い、共に高め合うという視点である。

#### ⑤運動の楽しさと意欲

授業内の学びは基礎的な運動技能の習得にとどまらず、生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎作りへとつなげていく視点である。

#### ⑥学びの一般化

体育科における学習を、体育の枠を超えて生き方や感じ方、コミュニケーション能力、自己実現に向けての大切さなど、具体的に自分の生き方に活かすという視点である。

以下、代表生徒3名のレポートを載せ、上記した6つの観点で評価をした。

## (1) 2年1組 I・R

### ①開脚前転への道 —工夫してやること—

私が特に力を入れて取り組んだ技は、**開脚前転**です。

その理由は、前転をまっすぐまわることと脚をすぐにひらいて立つという⑤少し難しいところがあり、挑戦したかったからです。その技の特徴は、②前転から膝をのばして開脚立ちになることです。また、ポイントは②脚の開きと起き上がりのタイミングです。

技を完成させるために苦労したことは2つあります。1つ目は、③前転をまっすぐ脚をのばしながらまわることです。もう一つは、③脚を開いた姿勢からしっかり立つことです。

④Mさんにアドバイスしてもらったことは脚をくっつけて瞬時にしっかり開いてしっかり立つことです。その中で一番有効だったのは、④脚をひらくとき、ちゃんとまっすぐのばして立つことです。技を達成するために工夫したことは、③手や脚に注意しながらきれいにまっすぐまわることです。自分で気付いたポイントは、②あごをひいてまわり、しっかりと脚を閉じてからすぐひろげることです。授業を通して、開脚は③簡単だけど工夫をすれば本当にうまくきれいにできるので、⑤磨けばひかるんだとわかりました。

授業を通して自分なりに見つけた課題は、③自信をもってまわることが大事だということです。私は今後、生活の中で⑥いろいろなことに自信をもって取り組んでいけるようになりたいです。

#### ①タイトルの付け方

開脚前転を学ぶ過程で工夫して取り組むということを選び、レポートの中に表現しようとしている。

#### ②技能ポイントの習得と定着化

学習カードを見たり練習したりする中で、開脚前転のポイントに気付いている。

- ・前転から膝を伸ばして開脚立ちになること
- ・脚の開きと起き上がりのタイミング
- ・あごをひいて回り脚を閉じてからすぐに開くこと

#### ③課題の自覚と活用

「脚を伸ばしながら前転すること」「脚を開いた姿勢から伸ばして立つこと」という2つの課題を見付け、技の達成に向けて積極的に練習に取り組んだ。

また技をきれいに魅せるために手や脚に注意しながら回ることを工夫している。

#### ④互いに認め、支え合う重要性の自覚

友達にアドバイスしてもらったことを正確にとらえ、積極的に練習の中に活かそうとしている。

#### ⑤運動の楽しさと意欲

難しいところがあるがあえてそれに挑戦しようと考え、技の達成のために努力をした。

#### ⑥学びの一般化

簡単なものでも工夫しだいでよりきれいにできることに気付き、今後の生活の中で自信をもって取り組んでいこうと考えている。

## (2) 2年2組 M・A

### ①マット運動に挑戦 —倒立前転成功への道—

今回マット運動の授業で私が特に力を入れて取り組んだ技は、**倒立前転**です。その理由は、⑤授業の共通課題になっているからです。倒立前転の特徴は②3秒間倒立をするところです。またポイントは②マットを見ながら足を振り上げるということです。

技を完成させるにあたって苦労したことは2つあります。1つ目は③3秒間倒立を保つことです。2つ目は③倒立を終えた後に立ち上がることです。そこで、ペアの④Oさんにアドバイスをもらったことは「倒立のとき足をのばして」ということです。このアドバイスを生かすべく、一番有効だった練習法は③舞台を使った練習法です。他にも技を完成させるために工夫したことは③壁を利用して練習するということです。その際自分で気付いたポイントは、②重心をうまくとることができれば倒立は成功できるということです。そして授業を通し、⑥練習のこがいて、倒立前転を成功させることができました。

授業を通して⑥自分なりに見つけた課題は、**自分の決めた目標に一生懸命取り組む**ということです。私は今後の生活の⑥いろいろなことを一生懸命取り組めるようになりたいと思いました。

#### ①タイトルの付け方

新たな種目に挑戦する中で、倒立前転を成功させるまでの努力の過程をレポートの中に表現しようとしている。

#### ②技能ポイントの習得と定着化

学習カードを見たり練習したりする中で、倒立前転のポイントに気付いている。

- ・マットを見ながら足を振り上げること
- ・重心をうまくとることができれば倒立は成功できること

#### ③課題の自覚と活用

「3秒間倒立を保つ」「倒立を終えた後に立ち上がる」という2つの課題を見付け、それに対して授業

で紹介した舞台や壁の練習法を積極的に使い、場を工夫して練習に取り組むことができた。

#### ④互いに認め、支え合う重要性の自覚

友達のアドバイスをもとに、新たな練習に取り組もうとする姿勢がみられた。

ペアの友達のサポートをし、共に技の達成に向けてがんばる姿がみられた。

#### ⑤運動の楽しさと意欲

教師が設定した共通課題に向けて積極的に取り組むことができた。

#### ⑥学びの一般化

自分の決めた目標に向かって一生懸命取り組むことの大切さに気付いている。



### (3) 2年2組 W・A

#### ① ていねいな演技 一足をのぼす側転

私が特に力を入れて取り組んだ技は2つあります。それは、**伸膝後転**と**側方倒立回転**です。その理由は、私がいろいろな技を見たとき、⑤「脚を曲げない」という点がすごく印象的で好きだったからです。

まず、伸膝後転の特徴は②足を閉じて膝をのぼしながらまわるところです。ポイントは②手に力を入れてマットを強く押し両足を引き寄せるところです。技を完成させるために苦労したことは2つあります。1つ目は③もともと後転が得意ではなくあごをなかなかひっこめられなかったところです。もう1つは③最後の立ち上がりです。どうしても腕の力だけで立てませんでした。

側転の特徴は②手の力を使って勢いよく体をまわすところです。ポイントは②足でしっかりマットをけてまわり、頭が下になったとき手に力を入れてあごを出すことです。苦労したことは③最後の着地です。どうしても足の位置がおかしくなりよろけてしまいました。

④Nさんにアドバイスをしてもらったことは、指に力を入れること、手足の着く順番です。その中でも④指に力を入れることを言われてから着地が一直線上でできました。達成にするために工夫したことは、伸膝後転をマスターするため⑤家で起き上がる練習や、③壁に沿ってきれいな側転をすることです。自分で気付いたことは、②ゆっくりでいいから1つ1つの動きを丁寧にやることでよりきれいな演技になることです。

授業を通して、⑥小さな動き、心がけ1つで自分の演技(動き)が大きく変わることを知りました。見つけた課題としては、人のアドバイスをよく聞いたり小さなミスをなくしたりすることです。今後生活の中で、④⑥人の話、動きをしっかりと見て、より完璧な動きをして、それをまた人に教えられるようになりたいです。

#### ① タイトルの付け方

側転(側方倒立回転)を学ぶ過程でどうしたら丁寧な演技ができるのかを学び、レポートの中に表現しようとしている。

#### ② 技能ポイントの習得と定着化

学習カードを見たり練習したりする中で、伸膝後転と側方倒立回転のポイントに気付いている。

- ・足を閉じて膝をのぼしながらまわる(伸膝後転)
- ・手に力を入れてマットを強く押し両足を引き寄せる(伸膝後転)
- ・足でしっかりマットをけてまわり、頭が下になったとき手に力を入れてあごを出すこと(側方倒立回転)
- ・1つ1つの動きを丁寧にやること

#### ③ 課題の自覚と活用

2つの技に対してそれぞれ自己課題をもち、練習方法を工夫して取り組むことができた。

- ・あごを引くこと(伸膝後転)
- ・最後の立ち上がり(伸膝後転)
- ・最後の着地(側方倒立回転)

#### ④ 互いに認め、支え合う重要性の自覚

友達のアドバイスを受け入れ、苦手克服に努める姿がみられた。また、人に教えてあげたいという考えをもつことができた。

#### ⑤ 運動技能の楽しさと意欲

技に対してよいイメージをもち、それを達成したいと考えている。

#### ⑥ 学びの一般化

- ・自分の心がけ次第で変わるということに気付いている。
- ・人の話をよく聞いたり動きをよく見たりして、より完璧な動きをしようと考えている。
- ・自分の中でとどまらせるのではなく、他人に教えられるようになりたいと考えている。

## VI 今後の課題と展望

本実践研究は、体育科での『言語力向上』を中心に、変化する時代に対応する資質や能力を求められる現代の子どもたちが共に支え合って生きていけるよう、学級・授業の両面から実践し検討したものである。

本研究は新学習指導要領の保健体育科教育課題に応えるとともに、中学校教育での「全教科・活動につながるカリキュラム開発」に生かす提案でもある。

### 1 仲間と支え合って生きていける生徒を育む

#### 一日指す生徒像を明確に

マット運動の実践を通して、たくさんのことを取り入れすぎてやや中途半端に終わってしまったということが一番の反省点である。友達と支え合うことで運動の楽しさや達成感を味わうことができるよう授業を構成したつもりであった。しかし、時間配分の誤差や生徒の実態によっては、その時間の目標に向けた取り組みがいまひとつできない等を感じる場面があった。

限られた授業時間数の中で、「どのような生徒を育てたいか」という一つの軸を明確にしておくことがとても大切だと、実践を通して改めて学ぶことができた。今後、試行錯誤しながらさまざまな視点から授業実践に取り組んでいきたい。

### 2 レポート活動を通して「学びの一般化」を

今回授業の最後の時間に教室でレポートを書く時間を取った。体育の授業の中で文章にして書き表すという活動が初めてだったが、授業での学びを生活の中へ活かそうとする内容がとても多くあった。一度型を示してしまえば、より個性を出して論理的に書きまとめることのできる生徒がたくさんいることを感じた。

今後の実践の中で、構成シートからはじまり段階を踏んでレポート指導をしていき、他教科や日常生活に生きるコミュニケーション能力や言語力を体育科でも大切にしていきたいと考えている。

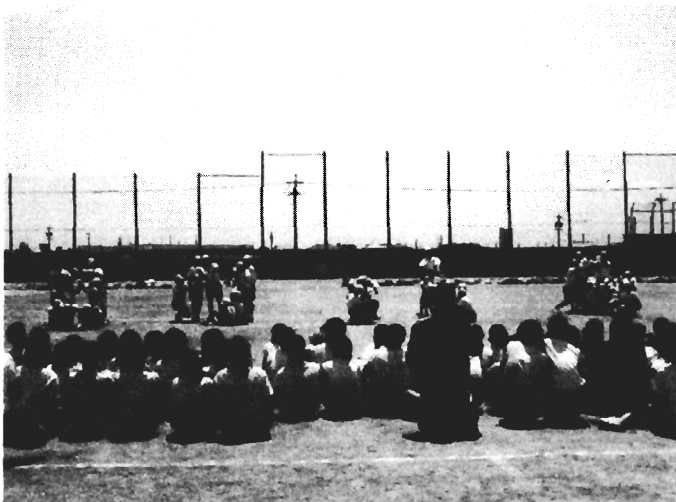
なお、誌面の関係上、授業アンケートやレポート等

の詳細については省略させていただいたことをお断りする。

## Ⅶ おわりに

私はこの2年間、教育の理論的な部分を学んだり同期の院生や現職の先生方と交流したりする中で、広い視野を持ちさまざまな視点から物事を考えることの大切さに気付くことができた。また、実習では長い期間学校現場に入らせていただくことで、先生方の授業の工夫や担任としての資質等を一から学ぶことができ、4月から始まる教員生活へのステップになったと心から思っている。

今後もたくさんの人たちとの出会いを大切に、今感じている教職に対する熱い気持ちを忘れぬよう、これから出会う子どもたちの未来のために努力し続けていきたい。



【写真】体育祭で的一枚(2012年5月12日)

### 【注 記】

- 注1) 中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」(2008.1)
- 注2) 『中学校学習指導要領解説 保健体育編』(2008.3)
- 注3) 『保健体育科教育法』(大修館書店,2009)
- 注4) 『言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】』(2011)
- 注5) 『新版 体育科教育学入門』(大修館書店,2010)
- 注6) 『中学校学習指導要領』第5章特別活動 学校行事(2008.3)

### 【主な参考文献】

#### 1 文部科学省関係

『中学校学習指導要領』(2008.3), 『中学校学習指導要領解説 保健体育編』(2008.3), 『小学校学習指導要領』(2008.3), 『小学校学習指導要領解説 体育編』(2008.3), 『言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】』(2011), 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」(中央教育審議会答申,2011), 『言語活動の充実について』(同,2008), 『柔道の授業の安全な実施に向けて』(スポーツ・青少年局,2012.3), 「武道必修化に伴う安全管理の徹

底について(依頼)」(同,2012.3)等。

#### 2 保健体育科教育関係

高橋健夫編著『新版 体育科教育学入門』(大修館書店,2010), 杉山重利・高橋健夫・園山和夫編『保健体育科教育法』(同,2009), 高橋健夫他編著『体育科教育別冊 新しい体づくり運動の授業づくり』(同,2009), 高橋健夫他編著『体育科教育別冊 新しいマット運動の授業づくり』(同,2008), 『体育科教育10月号 体育から発信する言語活動の充実』(同,2011), 『～事故をこうして防ごう～柔道の安全指導(2011年第三版)』(全日本柔道連盟,2011), 中学校武道必修化サイト(日本武道館,2011), 『体育科教育1月号 みんなが楽しめる武道の授業を創ろう』(大修館書店,2012)等。

#### 3 実習校・講習会関係

『平成24年度 学校経営案』(豊橋市立吉田方中学校,2012), 同『なりたい自分を描き続け、よりよく生きようとする生徒の育成』(同,2009.10), 『平成24年度 体育実技伝達講習会』(豊橋市教育委員会,2012.8)等。

#### 4 言語活動の充実・授業力

佐藤洋一編著『国語科「習得・活用型学力」開発と授業モデル1~4』(明治図書,2011), 「学校全体で取り組む『言語活動の充実』, 何が実践課題か?」(2011), 同「全教科・活動の基礎学力6項目(基盤となる言語力・国語科基礎学力)」(2012.5), 同「全教科・活動の中核としての言語力・コミュニケーション能力(言語技術の系統性モデル)」, 同「これから求められている実践的・授業研究力ー基礎の基礎, 七つの原則ー」, 同「授業不成立・学級崩壊の原因となる12の要素」(2012.5), 同「なぜ国語を学ぶのか」(講演会資料,2012.12), 『VIEW21 Vol.2 中学版』特集「言語活動で授業を捉えなおす」(2011)等。

### 【付 記】

教職大学院2年間の主な実習は、以下の学校で行わせていただきました。

「学校サポーター実習」「教師力向上実習Ⅰ・Ⅱ」(豊橋市立吉田方中学校) 平成23年度: 校長曾根英臣先生, 教務奥本寛先生, 指導教官吉川和良先生 平成24年度: 校長藤田俊晴先生, 教務市川正浩先生, 指導教官鈴木麻衣子先生・白井尚見先生  
「教師力向上実習Ⅲ」(豊川市立西部中学校) 校長伊藤博之先生, 指導教官齋川浩先生・宮下二郎先生

なお、特別課題実習(豊田市立東保見小学校), 多様なフィールド実習(豊橋ひかり乳児院)を含め、実習中は多くの先生方にご指導・ご助言をいただきました。今回この場でお名前を挙げることはできませんが、お世話になったすべての先生方から感謝申し上げます。

最後になりましたが、サポーター実習・教師力向上実習ⅠⅡ・終了報告書等で熱心にご指導をしてくださった佐藤洋一先生, 教師力向上実習Ⅲでご指導をくださった川北稔先生, ご指導・ご助言をくださった教職大学院のすべての先生方に心から感謝申し上げます。2年間で学んだことを、4月から始まる教員生活で活かし、実践していきたいと思えます。本当にありがとうございました。